

Ⅱ-① 児童会企画「附坂小オリンピックパラリンピック」

令和元年11月21日、ロングの昼休みを利用して全校生を対象に「附坂小オリンピックパラリンピック」が開かれた。これは児童会が企画したもので、運動場や体育館に設置した「ボッチャ」「シッティングバレーボール」「ボーリング」「的当て」「トランポリン幅跳び」などのコーナーで、異学年で競技を楽しみながら、助け合ったり、教え合ったりする姿が見られた。

企画・運営に当たった6年児童会役員は、パラリンピックの種目「ボッチャ」と「シッティングバレーボール」を加え、全校生に体験を通して理解を深めてもらいたい。そして、みんなが助け合い楽しい附属坂出小学校にしたいと力強く語った。

7月には、石谷一寿さん、10月には河合純一さんのパラリンピックの話聞き感銘を受けたそう。自ら、ボッチャ協会へ連絡を取り、道具を借り、専門の方を招いての開催となった。

このような児童発の取組が、インクルーシブな学校文化を醸成していくことだろう。

1 活動の様子



①ボッチャ協会の方にルールを教えてもらう



②ボッチャを楽しむ子供たち



③シッティングバレーボール



④トランポリン幅跳び



⑤ペットボトルボーリング



⑥的当て



⑦バランスボールリレー



⑧ボール投げゲーム

2 参加者の感想(一部)

<児童の声>

- ・はじめは面白くないと思っていたけど、やってみたら面白かった。
- ・上手に投げられなかったけど、友達の投げ方をまねしてみたらできた。
- ・近くに投げるのが難しかったけど、できるようになったら面白かった。
- ・名前は知っていたけど、内容はよく分かっていなかった。ルールの説明をしてもらってやり方を知ってやってみたら面白かった。

<児童会の声>

- ・シッティングバレーボールやポッチャを企画することで、たくさんの人にパラリンピックについて興味をもってもらえてうれしかった。少しでもたくさんの人が東京パラリンピックを見てくれたらうれしい。
- ・みんなが楽しいと言ってくれてイベントを企画してよかったと思った。
- ・ポッチャは学年に関係なく一緒に楽しめるのでとてもよかったと思う。

<児童会担当教員の声>

- ・始めは、ポッチャの玉を自分たちで作って、簡単なゲームをするのだろうと思っていた。しかし子供たちは、実際の道具を使って、実際のゲームを体験できた方がいいと考えポッチャ協会へ連絡をとっていった。子供たちの思いと行動力に感心した。
- ・説明ボードや得点ボードも自分たちで作成し、1年から6年までに分かりやすく伝えたい、楽しんでもらいたいという思いが伝わってきた。その思いがうまく形になった企画だった。